

## 西原町立学校通学区域見直しに関するアンケート結果について

## 1. 目的

西原町立坂田小学校の過密化及び西原町立西原南小学校の過疎化を解消すること等を目的として、保護者等へアンケート調査を実施し、西原町立学校の通学区域の見直しを検討するため。

## 2. 概要

調査期間 令和 7 年 9 月 8 日から令和 7 年 10 月 3 日

調査方法 LOGO フォームによる web 回答

調査対象 未就学児及び小中学校保護者、地域住民

回答数 943 件

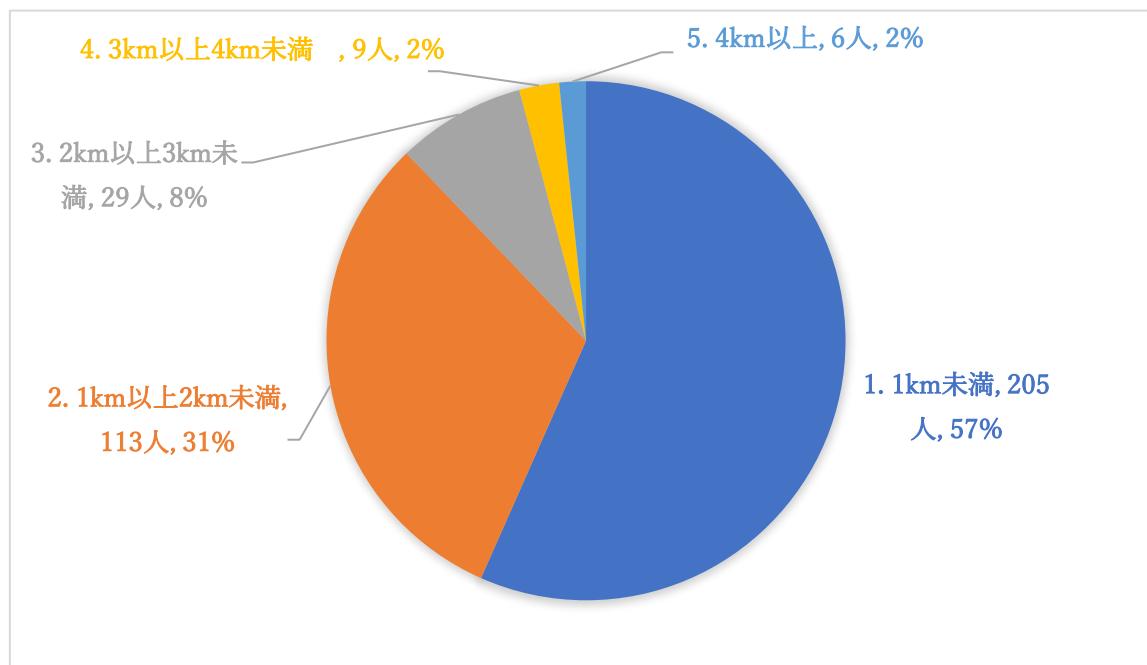
	対象世帯	回答世帯	回答割合
未就学児の保護者	1,263	367	29.06%
小学生の保護者	1,079	348	32.25%
中学生の保護者	538	145	26.95%
地域住民	12,974	83	0.64%
合計	15,854	943	5.95%

## 3. 回答結果について

## (1) 未就学児の保護者

## ① 自宅から通学予定の学校の距離を教えてください

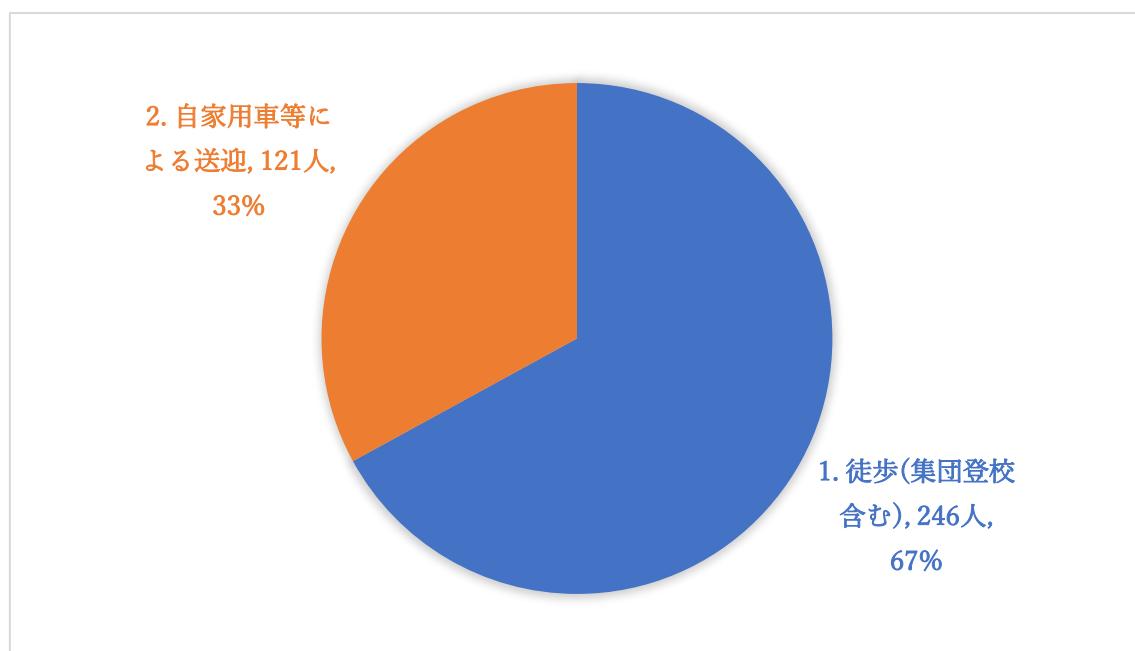
→ 通学距離は約 88% の子が 2km 未満の登校距離の予定となっております。2km 以上と回答した地域は、指定校変更予定者を除くと、坂田小学校区域だと上原や幸地高層住宅、西原南小区域だと池田、西原小学校区域だと兼久が多い結果となりました。



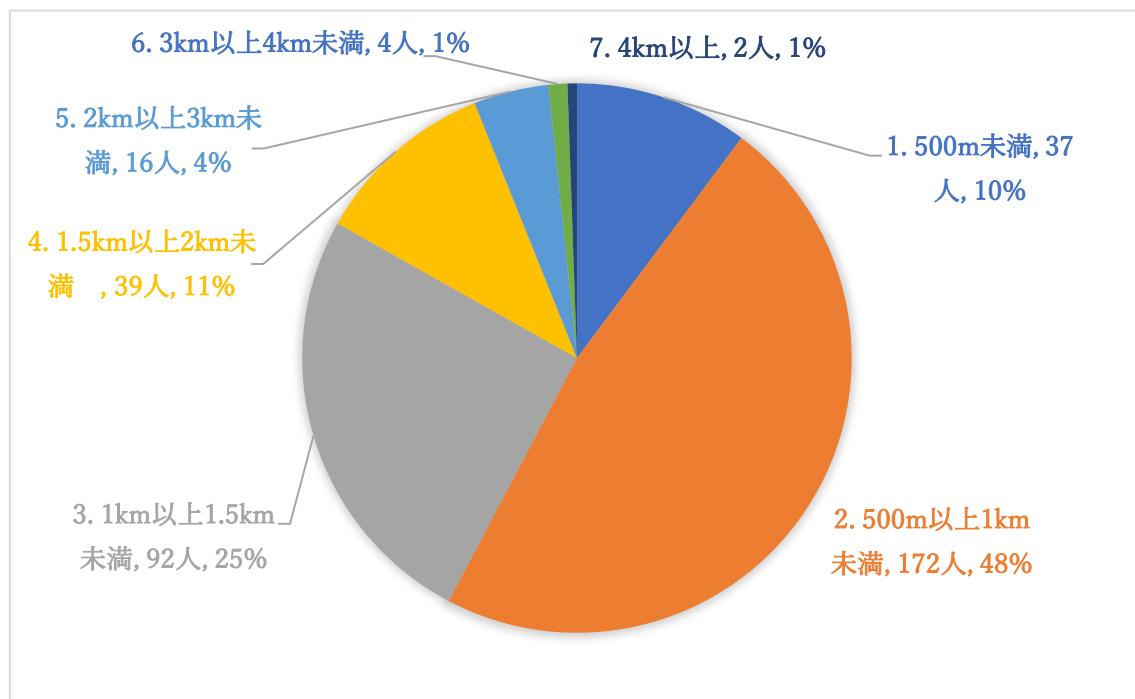
## ② 予定している通学手段を教えてください

→ 通学手段は、3人に2人が徒歩通学を予定しており、3人に1人は自家用車等での送迎を予定しております。なおバス等の公共交通機関を予定している人は1人もいませんでした。

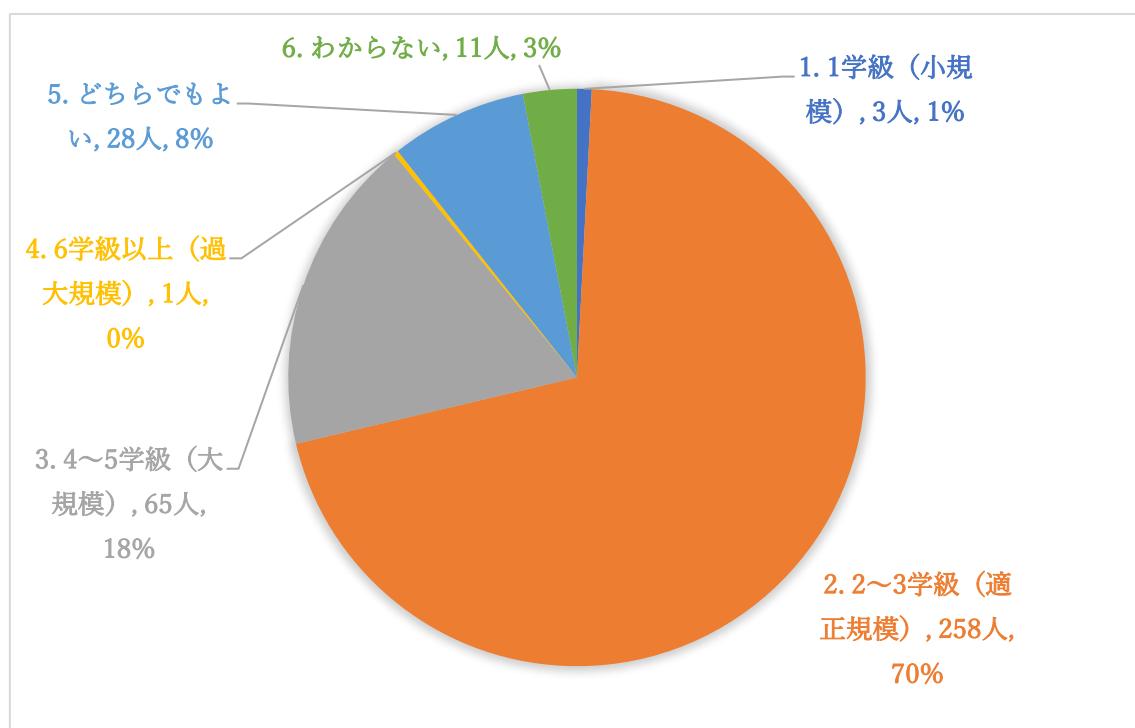
また、先ほどの通学距離で 2km 以上と回答した内の 82% は自家用車での送迎を予定しており、1km 未満と回答した方でも 12% は自家用車での送迎を予定している結果となりました。



- ③ 通学において、徒歩で許容できる通学距離を教えてください  
 → 通学において、徒歩で許容できる距離については、500m 以上 1km 未満の割合が 48% と一番多く、次に 1km 以上 1.5km 未満という結果となりました。

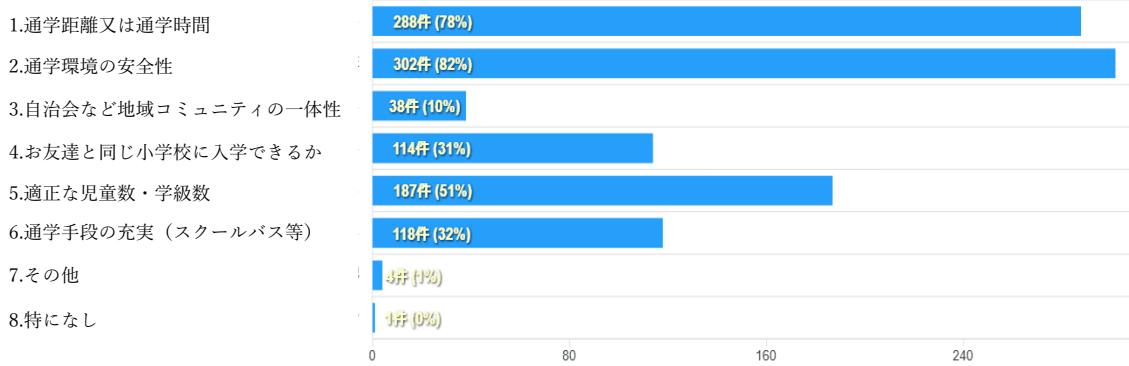


- ④ 小学校において望ましい学級数を教えてください  
 → 小学校の規模については 1 学年 2~3 クラスの適正規模が望ましいとの割合が 70% を占め、次いで 1 学年 4~5 クラスの大規模が 18% となっています。なお、1 学年 1 クラスの小規模校が望ましいとの回答は 1% のみの結果となりました。



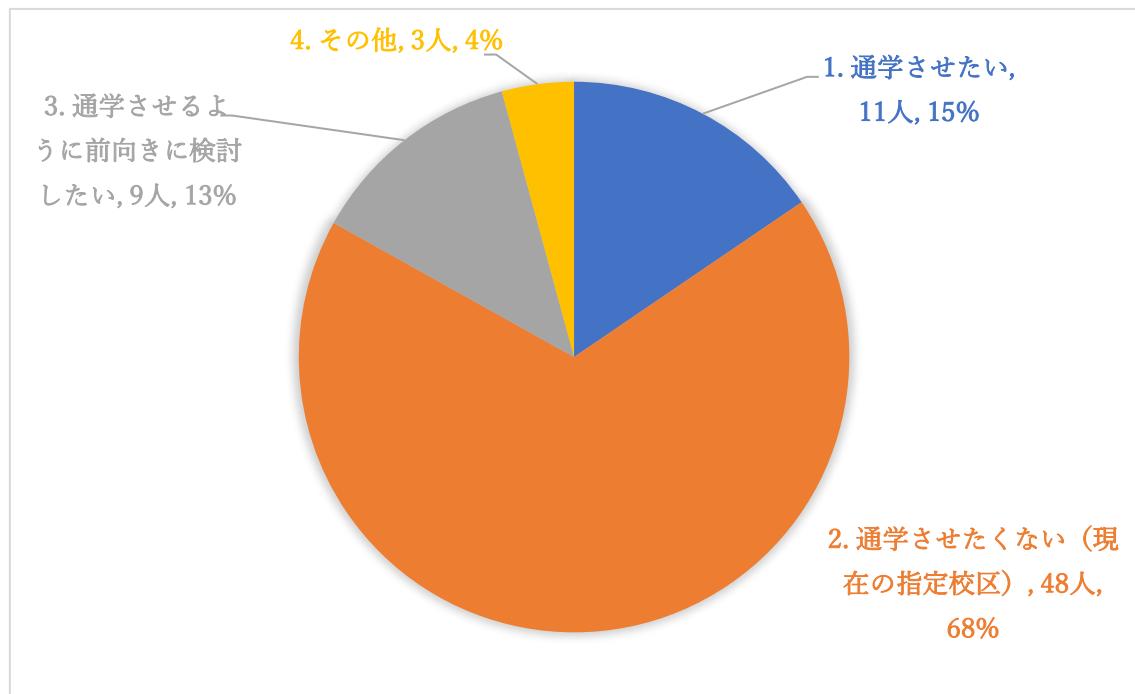
⑤ 通学区域の見直しを検討するに当たり、特に重要な要素を選んでください。

→ 通学区域の見直しを検討するにあたり重要なことについて、通学環境の安全性が82%で1番高く、次いで通学距離又は時間が78%、適正な児童数・学級数が51%となっています。なお、自治会などの地域コミュニティの一体性については10%と低い結果となっています。

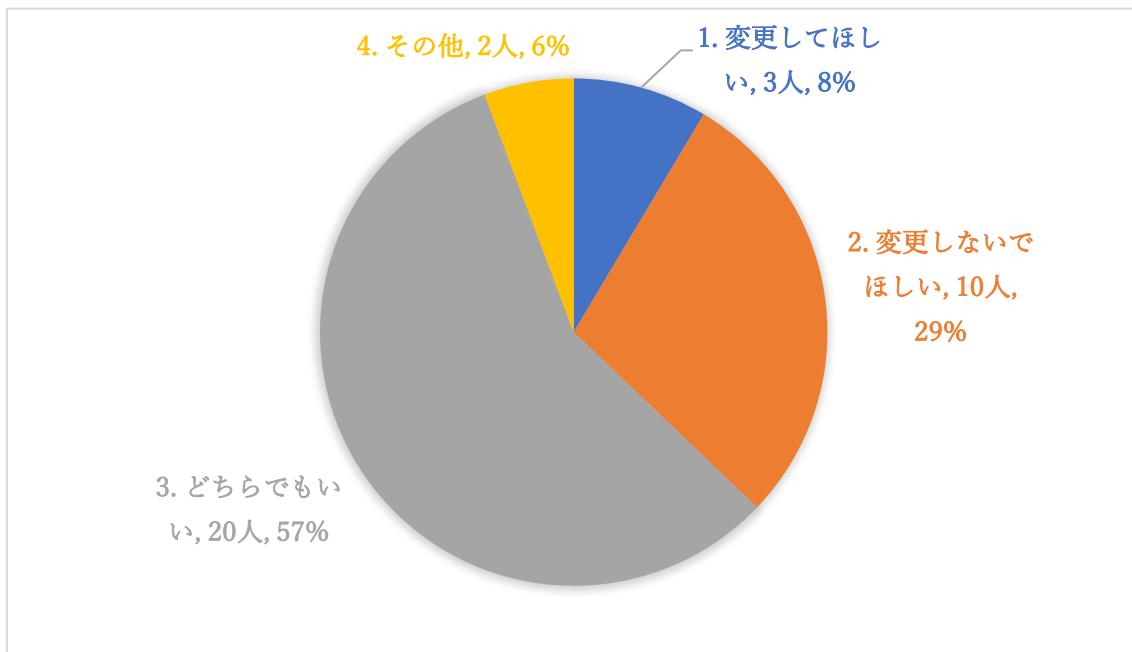


⑥ 坂田小区域の方で、地域の公民館等を停留所とし、登校時は公民館から西原南小学校へ、下校時は西原南小学校から公民館等までの無料のスクールバスを運行した場合、西原南小学校へ通学させたいと思いますか。

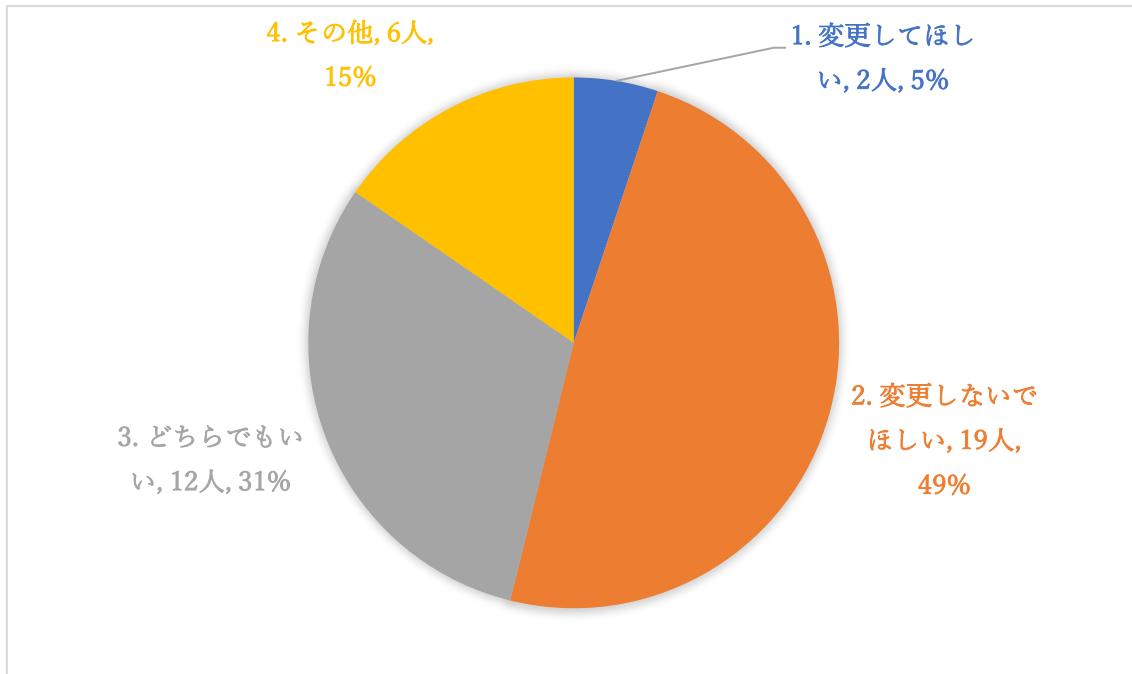
→ スクールバスが運行している場合、約15%の方が西原南小学校に通学させると回答しており、通学させるように前向きに検討したいを含めると、約28%の方がスクールバスがあれば西原南小学校への入学を検討する結果となりました。



- ⑦ 我謝区の方で、西原南小学校が近い地域を、西原小学校から西原南小学校に変更することについて検討しています。どう思いますか  
 → 変更してほしいが 3%、変更しないでほしいが 29%で、変更しないでほしいが多い結果となりました。また、我謝区全体のアンケートとなっていることもあり、どちらでもいいが 57%もありました。

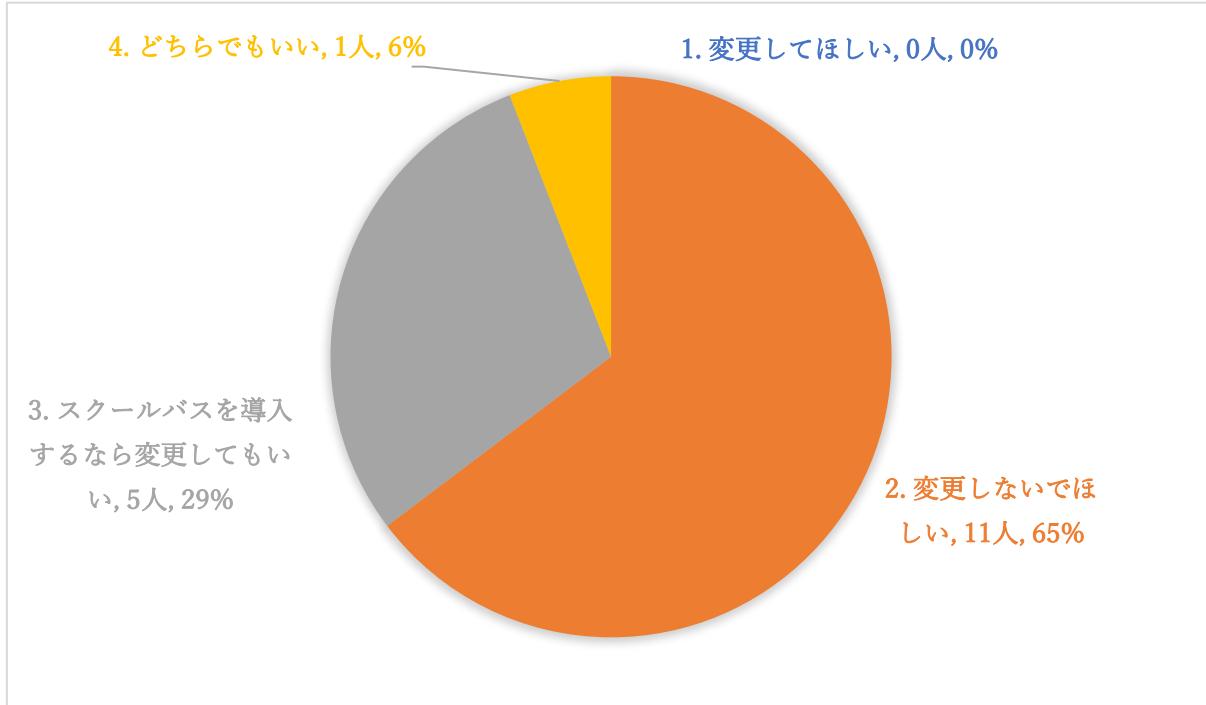


- ⑧ 翁長区の一部地域（下翁長）について、坂田小学校区から西原南小学校区に通学区域を見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。  
 → 変更してほしいが 5%、変更しないでほしいが 49%で、変更しないでほしい方が多い結果となりました。また翁長区全体のアンケートとなっていることもあり、どちらでもいいが 31%もありました。



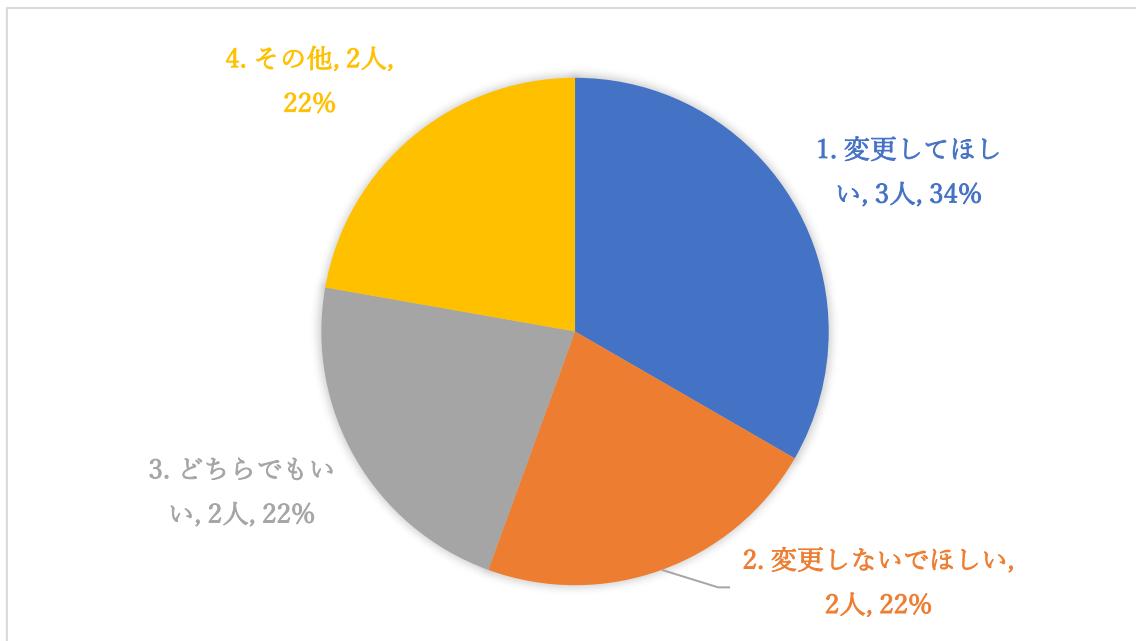
⑨ 幸地ハイツ、幸地高層住宅、幸地、坂田高層住宅について、通学区域を現在の坂田小学校区から西原南小学校区に見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。

→ スクールバスを導入するなら変更してもいいが29%、変更しないでほしいが65%で、変更しないでほしいが多い結果となっています。なお、変更してほしいと回答した方は1人もいませんでした。

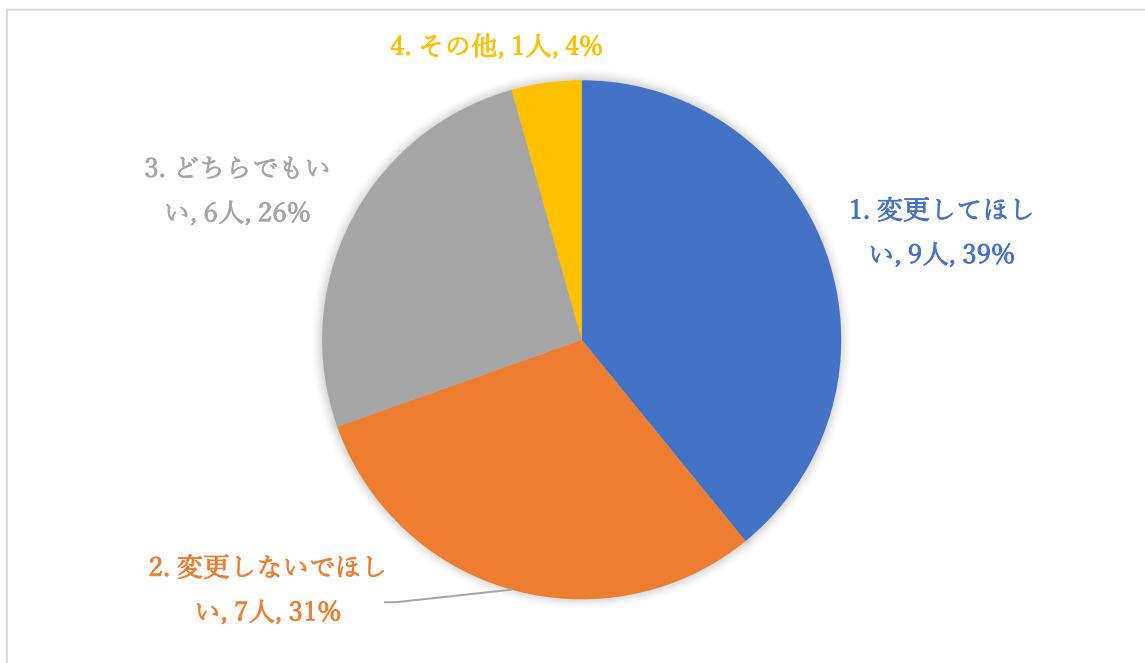


⑩ 呉屋地区について、通学区域を現在の西原東小学校区から西原南小学校区に見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。

→ 変更してほしいが34%、変更しないでほしいが22%で、変更してほしいが若干多い結果となりました。

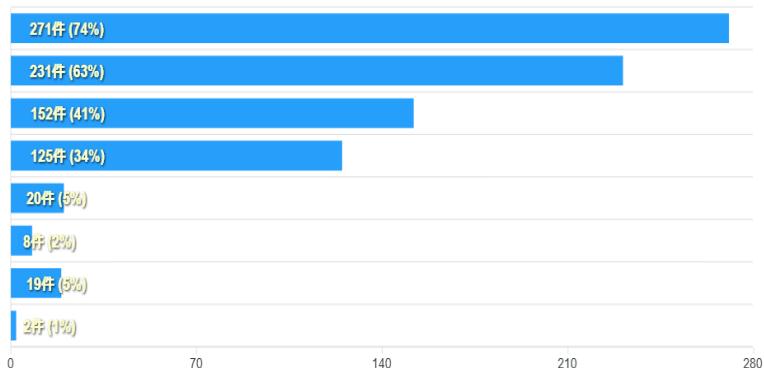


- ⑪ 呉屋、津花波、西原台団地、西原ハイツについて、坂田小学校及び西原南小学校の児童は西原中学校へ、西原小学校及び西原東小学校の児童は西原東中学校への通学区域に変更することを検討しております。それについてどう思いますか。
- 変更してほしいが 39%、変更しないでほしいが 31%で、変更してほしいが若干多い結果となりました。



- ⑫ 通学区域の見直しを実施するとなった場合、どのような措置をすべきかお伺いします。  
(複数回答可)
- 兄弟児がいる場合は兄弟と同じ学校に通学できるようにしてほしいが一番多い結果となりました。

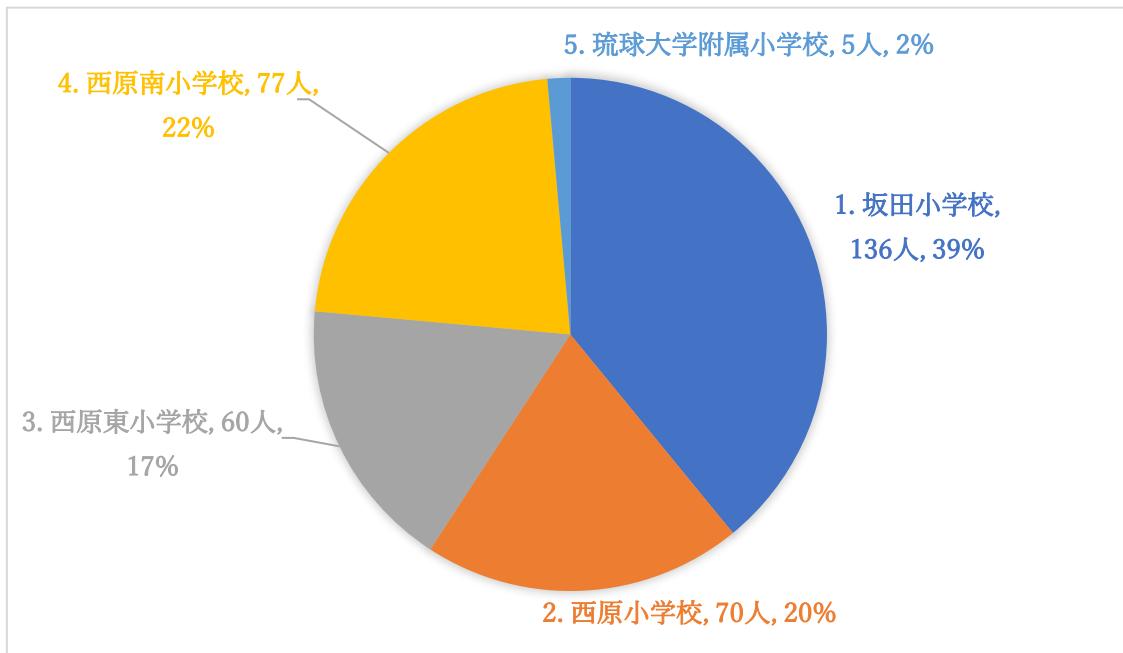
1. 兄弟児がいる場合は兄弟と同じ学校に通学できるようにしてほしい
2. 通学距離が遠くなる場合は元々の学校も選択できるようにしてほしい
3. 自治会内で分かれる場合は、どちらの学校も選択できるようにしてほしい
4. 当面の間は変更前の学校にも通えるように経過措置を設けてほしい
5. そもそも通学区域の見直しを実施しないでほしい
6. その他
7. 特になし
8. 未回答



(2) 小学生の保護者

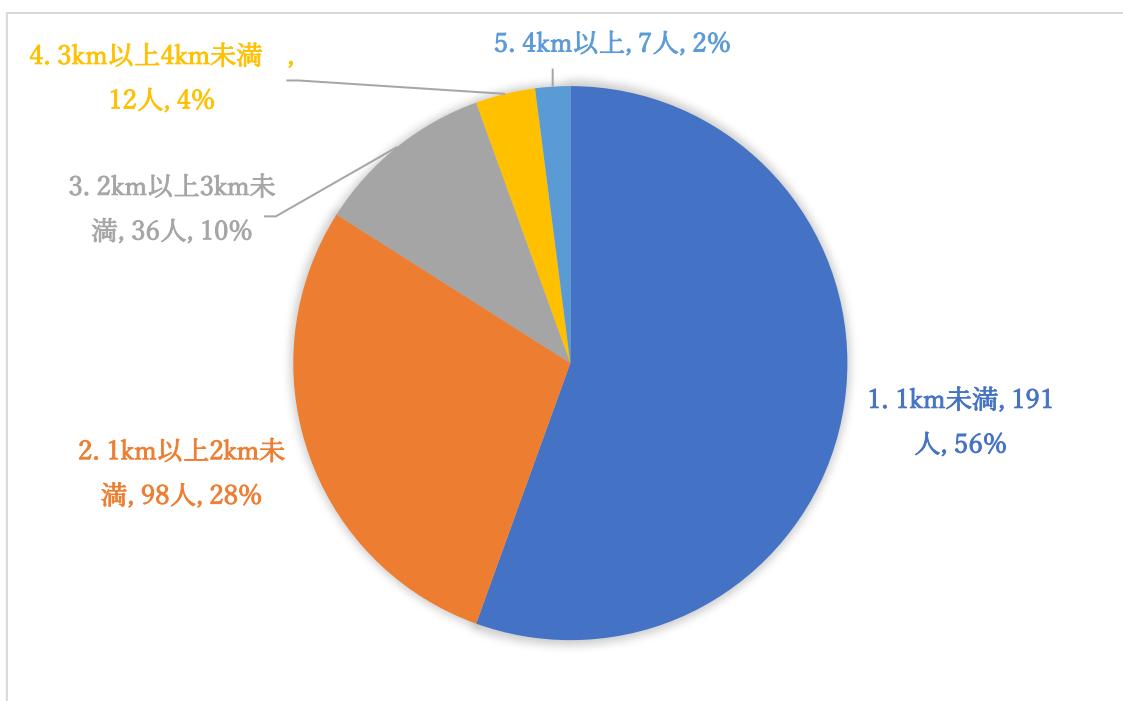
① 現在通学している小学校を教えてください。

→ 今回のアンケートで 348 人の回答があり、その内、坂田小学校が 39% と最も多く、次いで西原南小学校が 22% となっています。



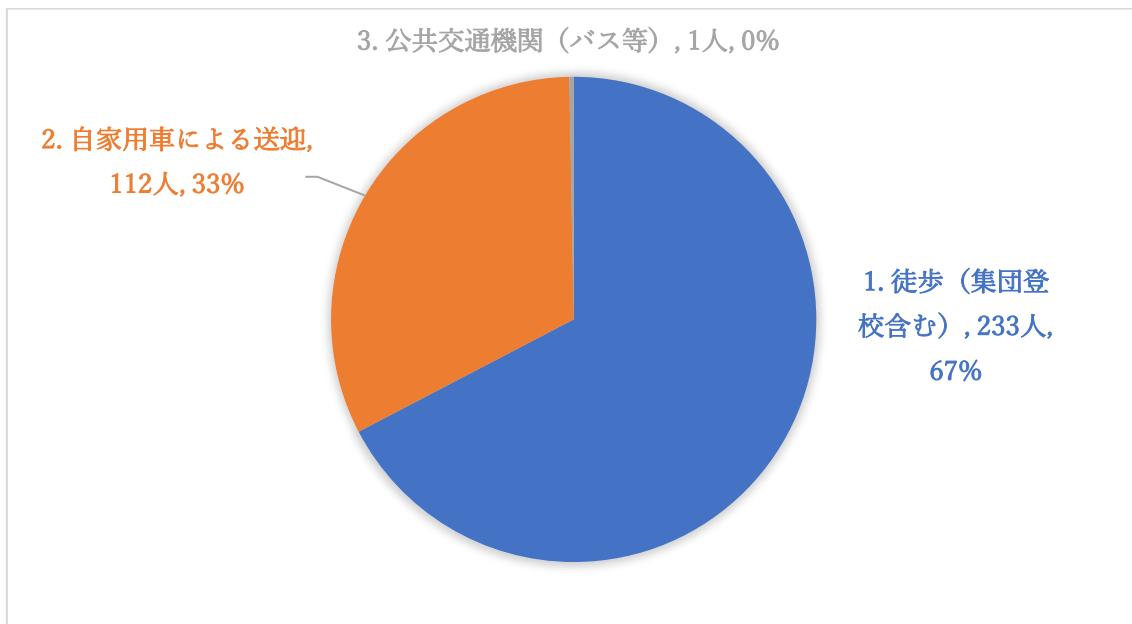
② 通学している小学校までの距離を教えてください。

→ 現在の通学距離については、1km 未満が最も多く 56% で、次いで 1km 以上 2km 未満が 28% と、84% の児童が 2km 未満となっています。



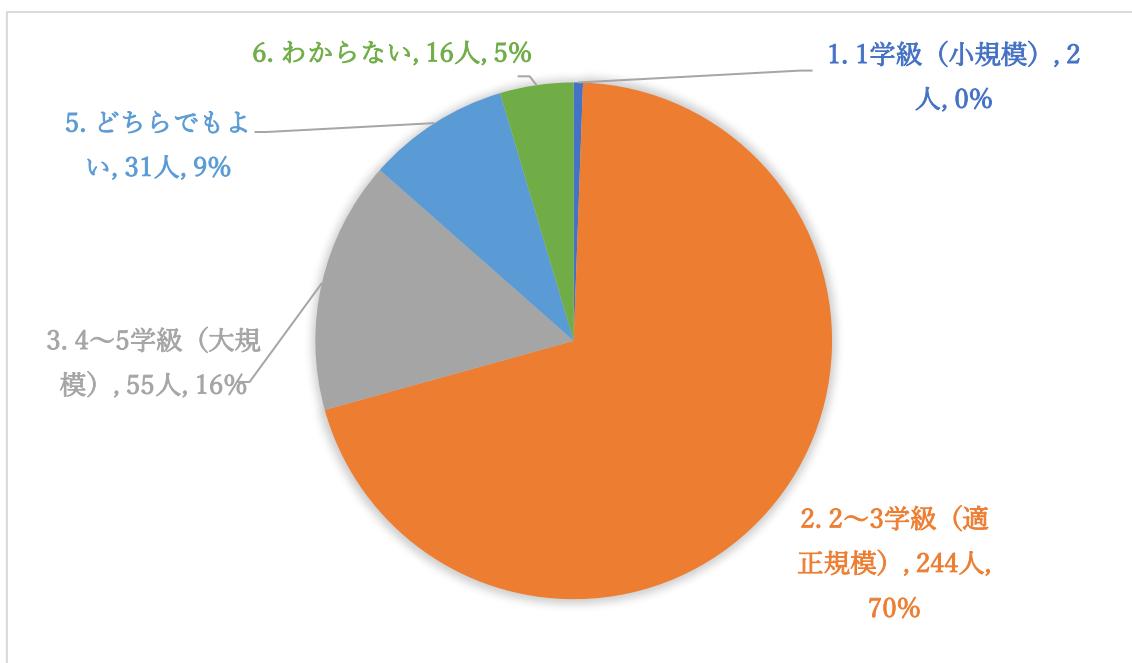
③ 通学手段を教えてください。

→ 通学手段は、3人に2人が徒歩通学で、3人に1人は自家用車等での送迎となっています。なお公共バスを利用している児童は1人のみとなっており、未就学児と似たような結果となりました。



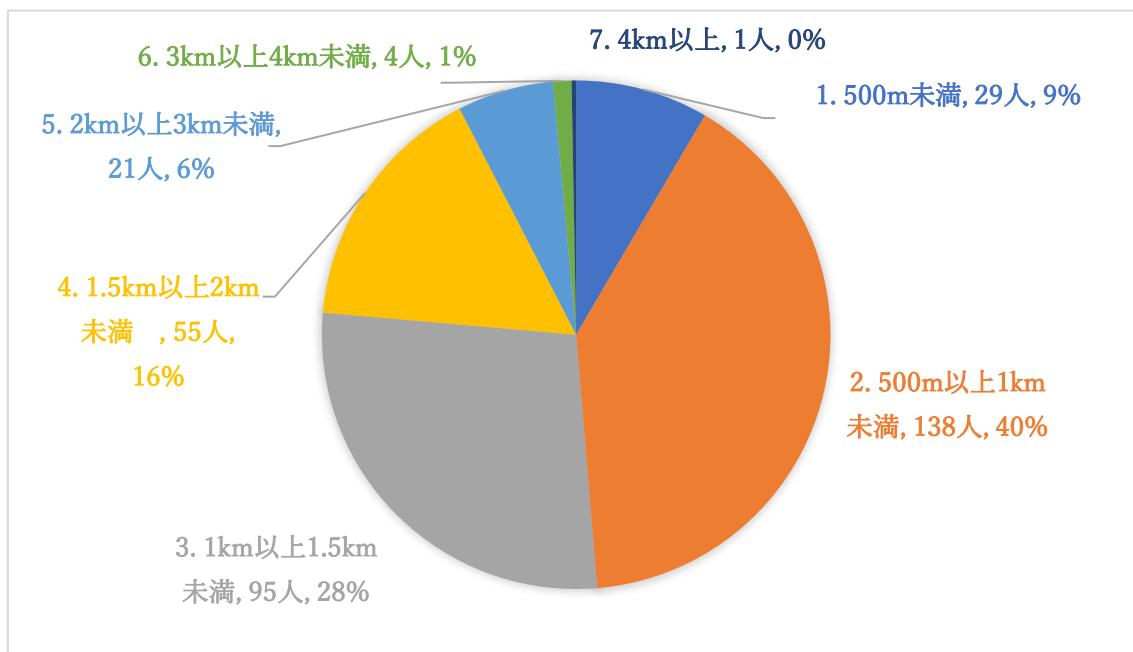
④ 小学校において望ましい各学年のクラス数を教えてください。

→ 小学校の規模については1学年2~3クラスの適正規模が望ましいとの割合が70%を占め、次いで1学年4~5クラスの大規模が16%となっています。なお、1学年1クラスの小規模校が望ましいとの回答は2人のみの結果となり、未就学児の回答と似たような結果となりました。



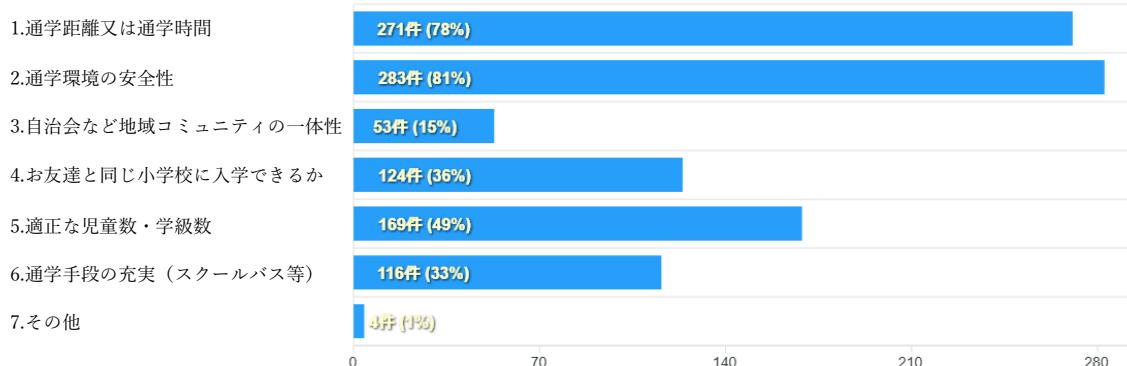
⑤ 通学において、徒歩で許容できる通学距離を教えてください。

→ 通学において、徒歩で許容できる通学距離は、500m以上1km未満の割合が48%と一番多く、次に1km以上1.5km未満の割合が28%という結果となりました。



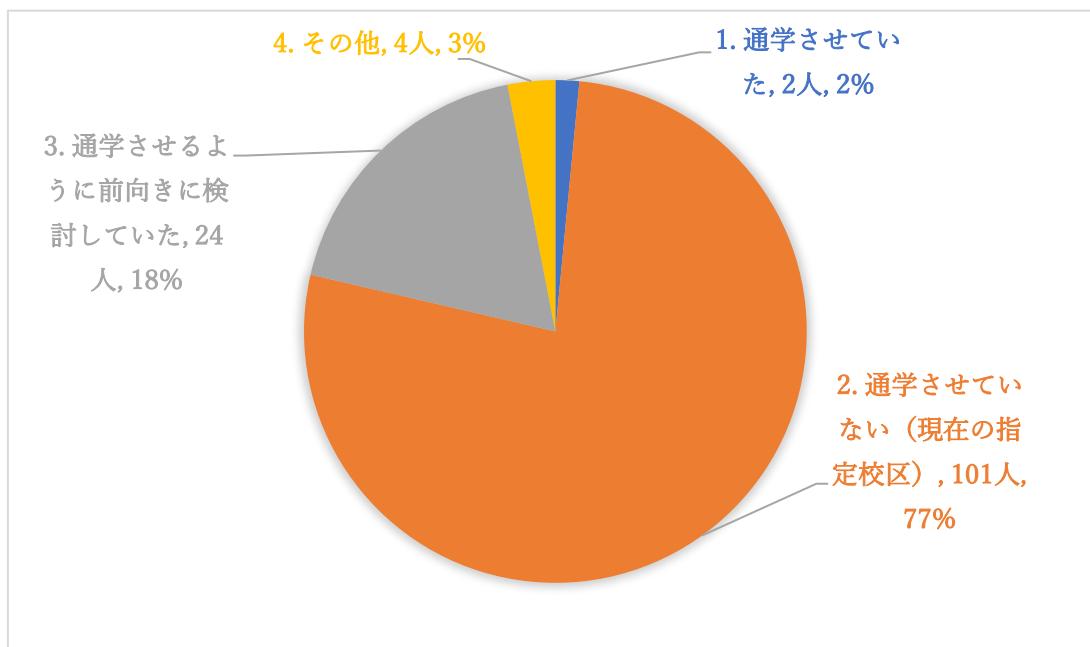
⑥ 通学区域の見直しを検討するに当たり、特に重要だと思う要素を選んでください。

→ 通学区域の見直しを検討するにあたり重要なことについて、通学環境の安全性が81%で1番高く、次いで通学距離又は時間が78%、適正な児童数・学級数が49%となっています。なお、自治会などの地域コミュニティの一体性については15%と低い結果となっており、未就学児のアンケート結果と似たような結果となりました。



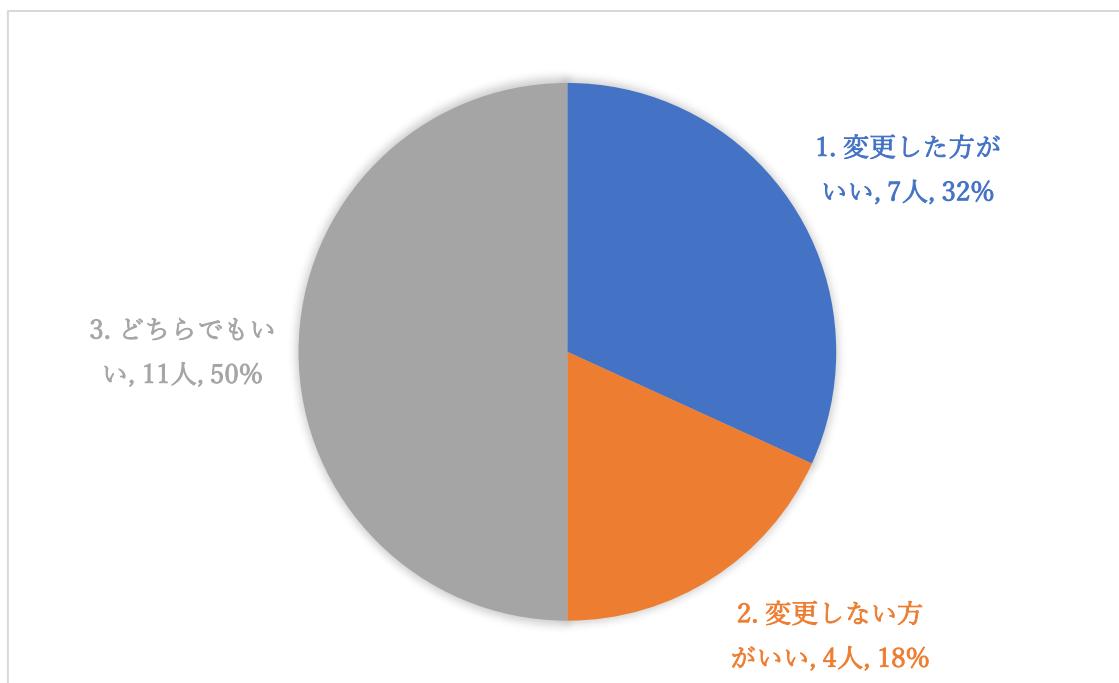
- ⑦ 幸地、幸地ハイツ、棚原、徳佐田、森川、千原、上原、翁長、坂田、県営幸地高層住宅、県営坂田高層住宅において、地域の公民館等を停留所とし、登校時は公民館から西原南小学校へ、下校時は西原南小学校から公民館等までの無料のスクールバスを運行していた場合、西原南小学校に通学させていたと思いますか。

→ スクールバスが運行している場合、約 2%の方が西原南小学校に通学させていたと回答しており、18%の通学させるように前向きに検討したいを含めると、20%の児童がスクールバスがあれば西原南小学校への入学を検討していた結果となりました。

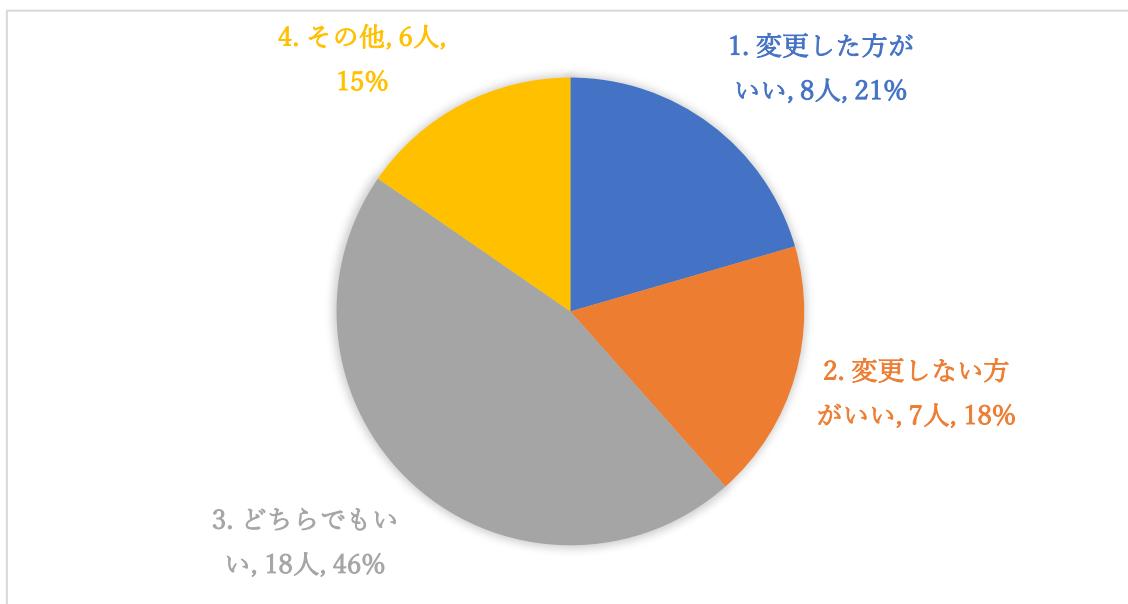


- ⑧ 我謝区の方で、西原南小学校が近い地域を、西原小学校から西原南小学校に変更することについて検討しています。どう思いますか

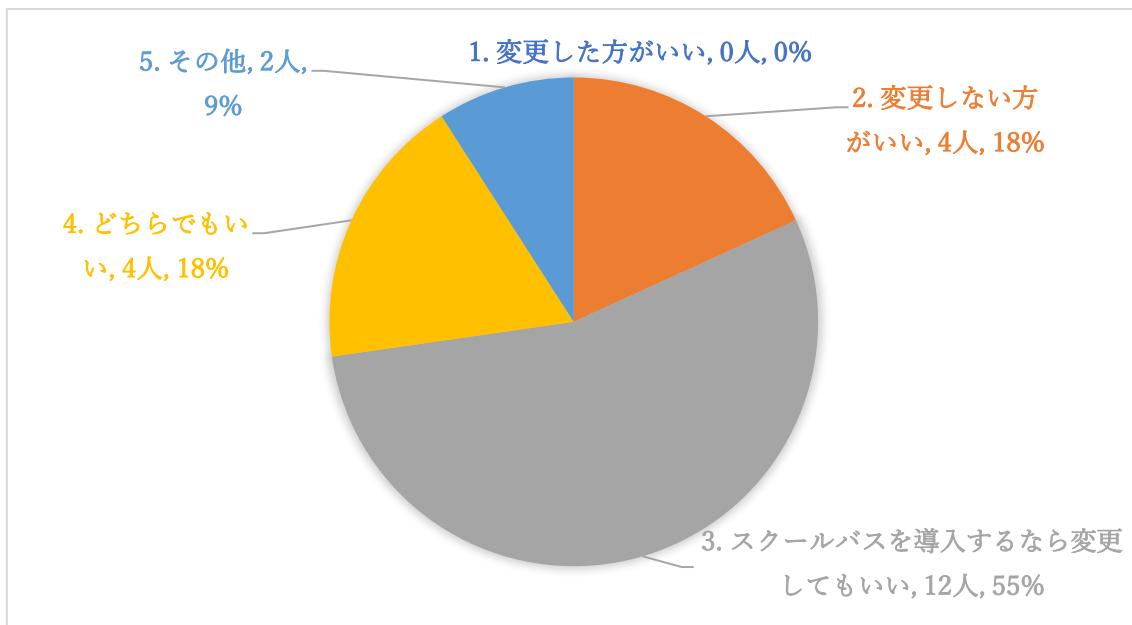
→ 変更した方がいいが 32%、変更しない方がいいが 18%で、変更した方がいいが多い結果となりました。また我謝区全体へのアンケートのため、どちらでもいいが 50%もいる結果となっています。



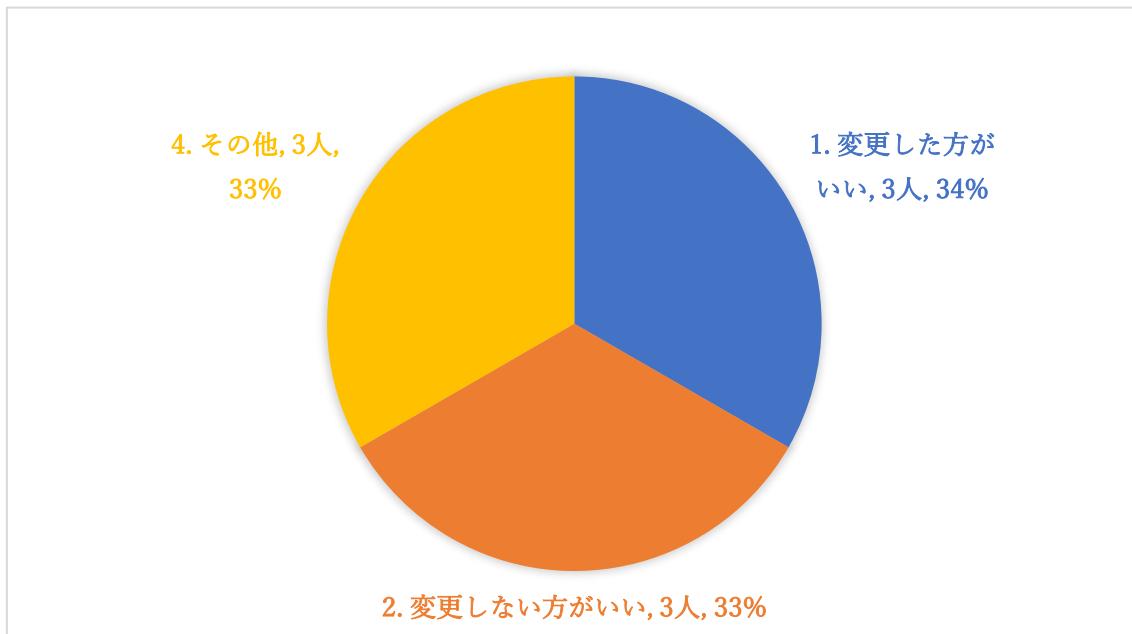
- ⑨ 翁長区の一部地域（下翁長）について、坂田小学校区から西原南小学校区に通学区域を見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。
- 変更してほしいが 21%、変更しないでほしいが 18%で、若干ではあるが、変更した方がいいが多い結果となりました。また翁長区全体へのアンケートのため、どちらでもいいが 46%もいる結果となっています。



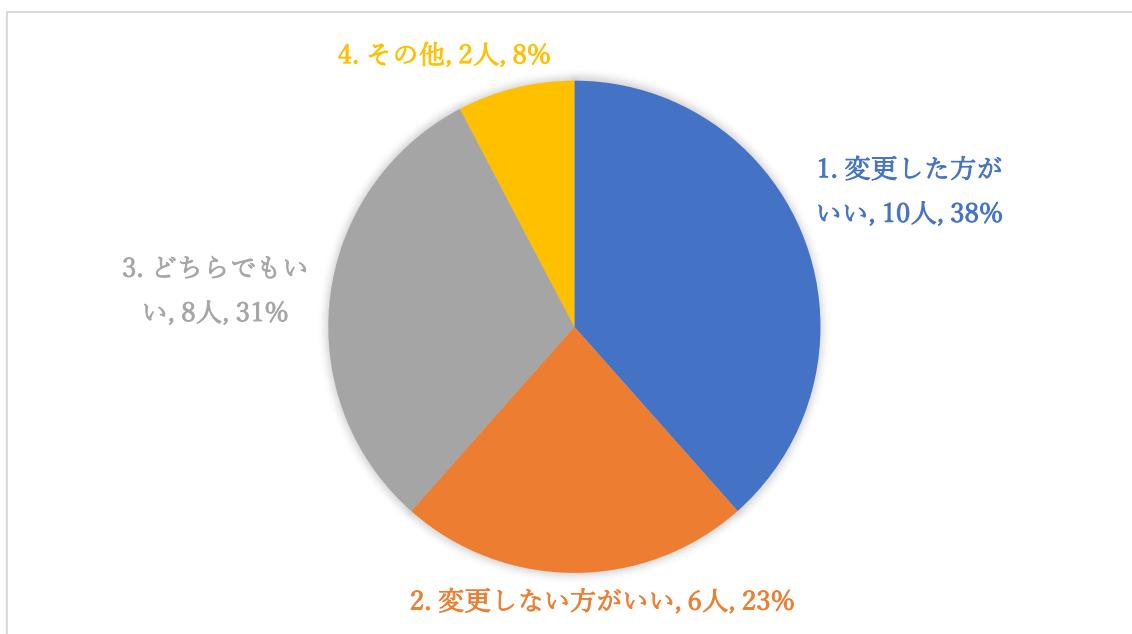
- ⑩ 幸地ハイツ、幸地高層住宅、幸地、坂田高層住宅について、通学区域を現在の坂田小学校区から西原南小学校区に見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。
- スクールバスを導入するなら変更してもいいが 55%、変更しない方がいいが 18%で、スクールバスを導入するなら変更した方がいいが多い結果となっています。なお、変更した方がいいと回答した方は 1 人もいませんでした。



- ⑪ 呉屋地区について、通学区域を現在の西原東小学校区から西原南小学校区に見直すことを検討しております。それについてどう思いますか。  
 → 変更した方がいいが33%、変更しない方がいいが33%で、同数の結果となりました。

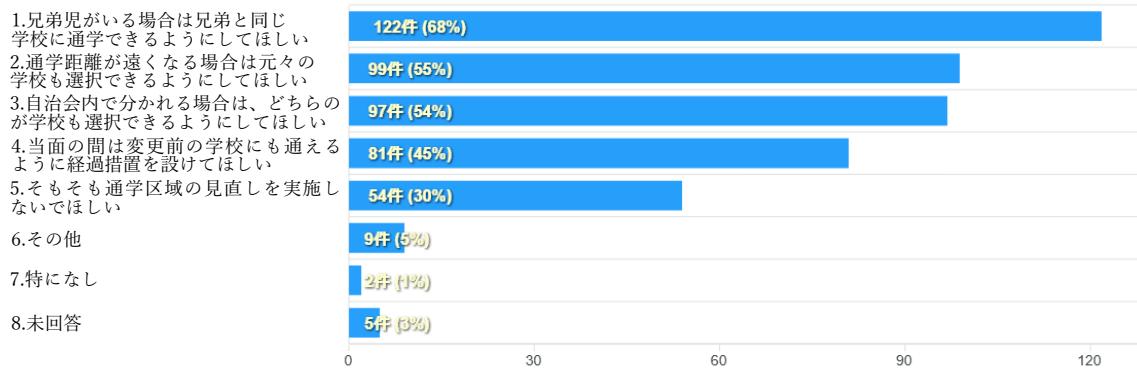


- ⑫ 呉屋、津花波、西原台団地、西原ハイツについて、坂田小学校及び西原南小学校の児童は西原中学校へ、西原小学校及び西原東小学校の児童は西原東中学校への通学区域に変更することを検討しております。それについてどう思いますか。  
 → 変更した方がいいが38%、変更しない方がいいが23%で、変更した方がいいと回答した方が多い結果となりました。



- ⑬ 通学区域の見直しを実施するとなった場合、どのような措置をすべきかお伺いします。  
(複数回答可)

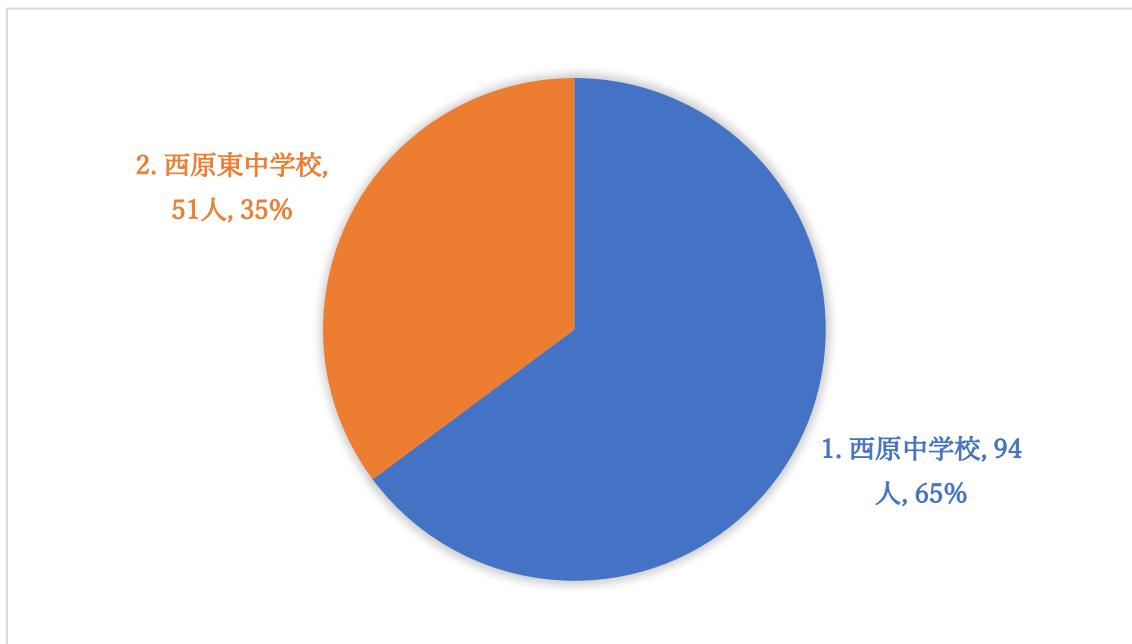
→ 兄弟児がいる場合は兄弟と同じ学校に通学できるようにしてほしいが 68%と一番高く、次いで通学距離が遠くなる場合は元々の学校も選択できるようにしてほしいとなりました。また、そもそも通学区域の見直しを実施しないでほしいも 30%ある結果となりました。



## (3)中学生の保護者

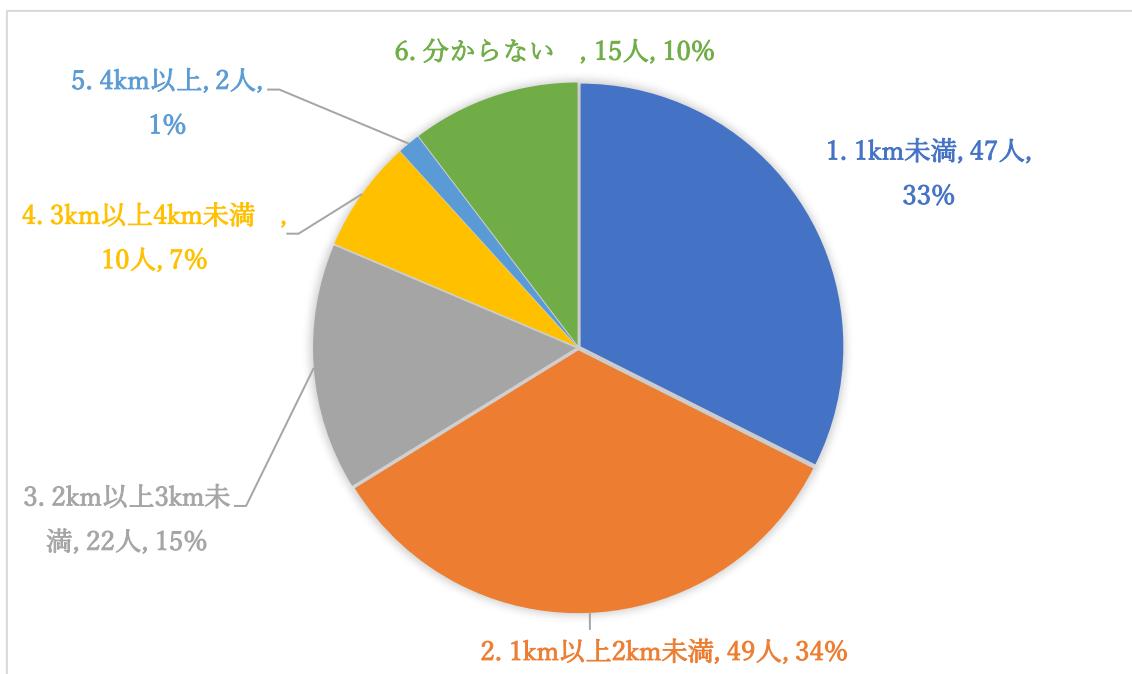
- ① 現在通学している中学校を教えてください。

→ 西原中学校生が 65%、西原東中学校生が 35% と、西原中学校の生徒の回答割合が多い結果となりました。



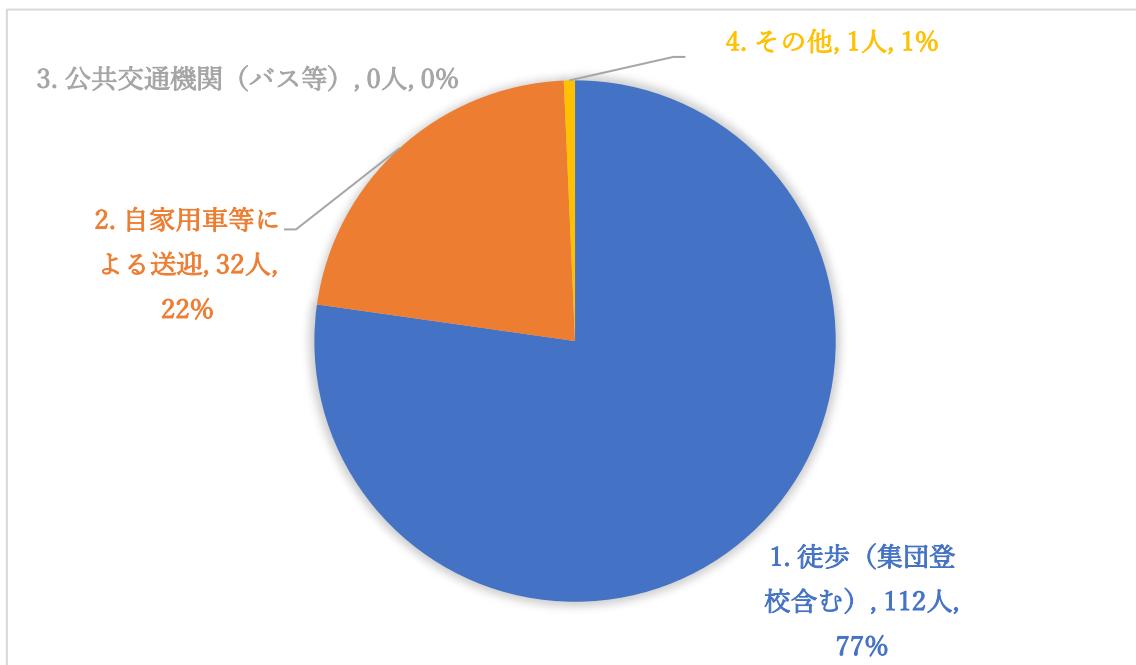
- ② 自宅から通学している中学校までの距離を教えてください。

→ 1km 以上 2km 未満が 34% で一番多く、次いで 1km 未満が 33% となっています。



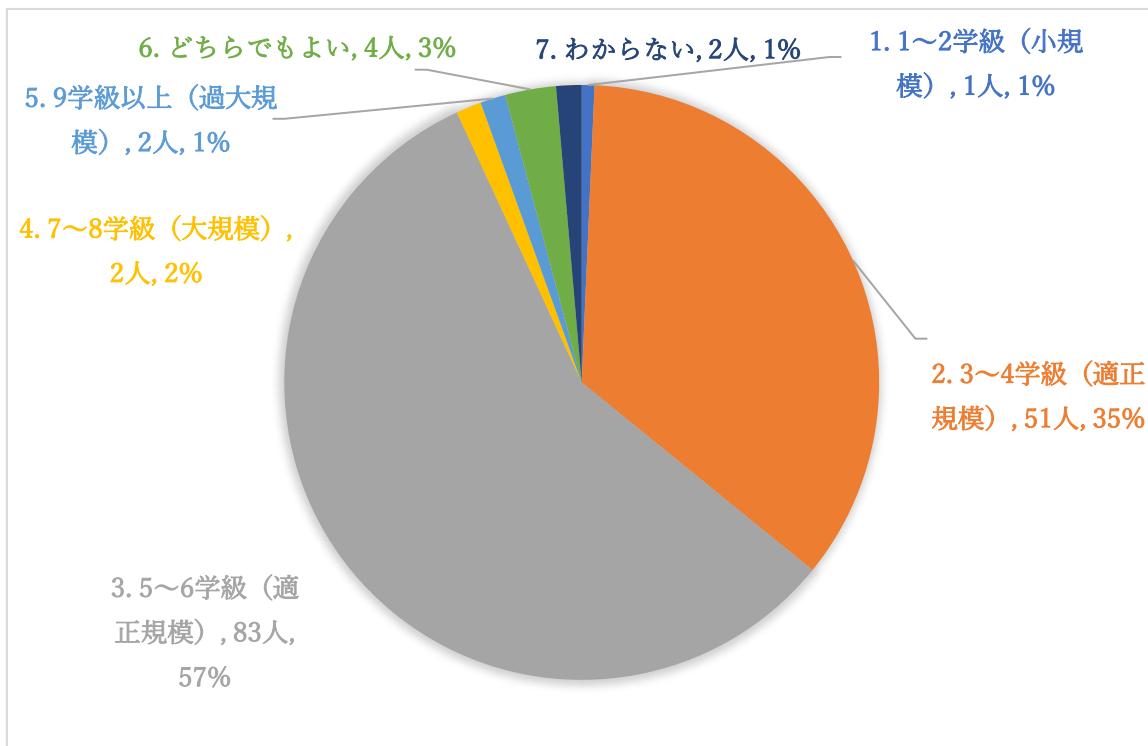
③ 通学手段を教えてください。

→ 通学手段は徒歩が 77%、自家用車等による送迎が 22% となっており、バス等の公共交通機関は 1 人もいない状況となっています。

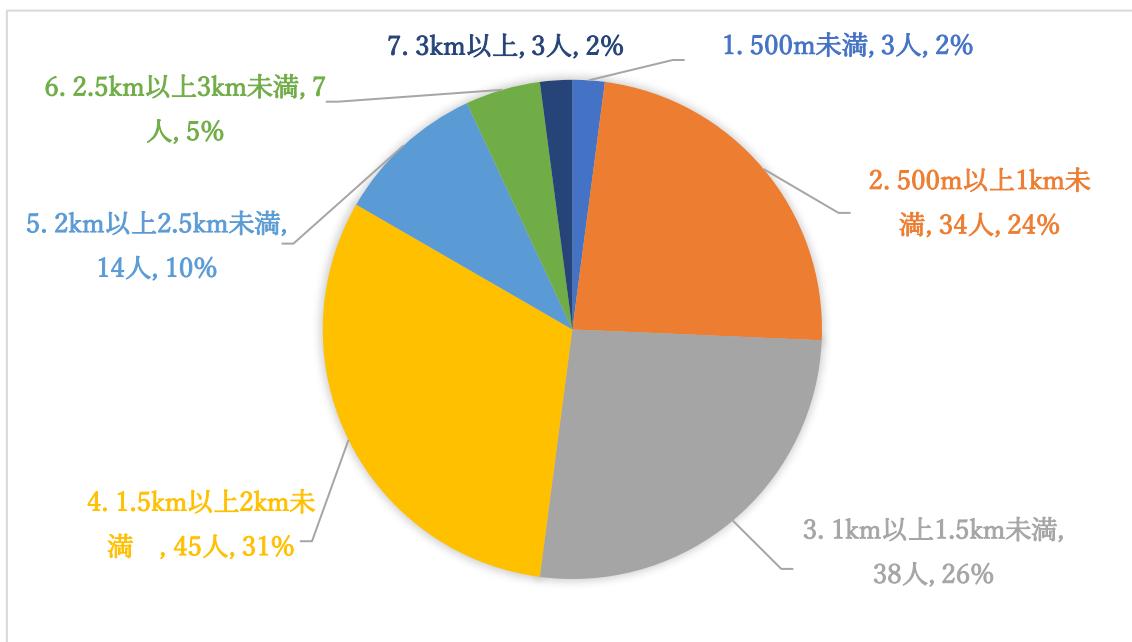


④ 中学校において望ましい各学年の学級数を教えてください。

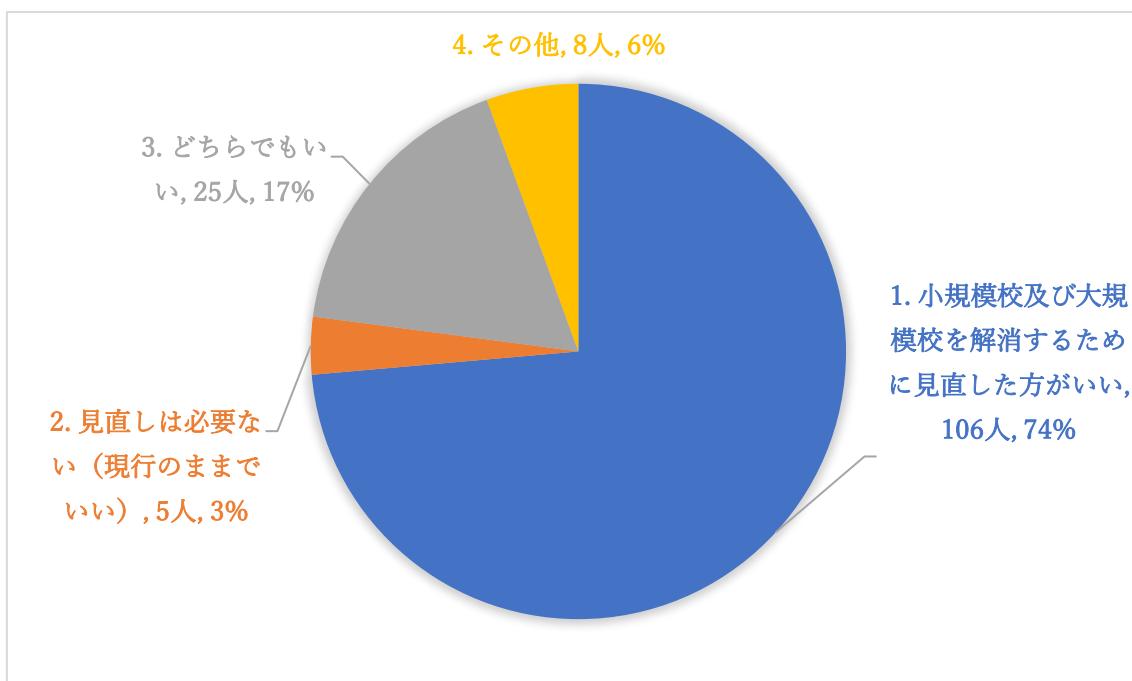
→ 中学校の望ましい学級数については、現在と同様の 5~6 学級が 57% となり、次いで 3~4 学級の 35% で、92% が適正規模の学級数を望んでいる結果となりました。



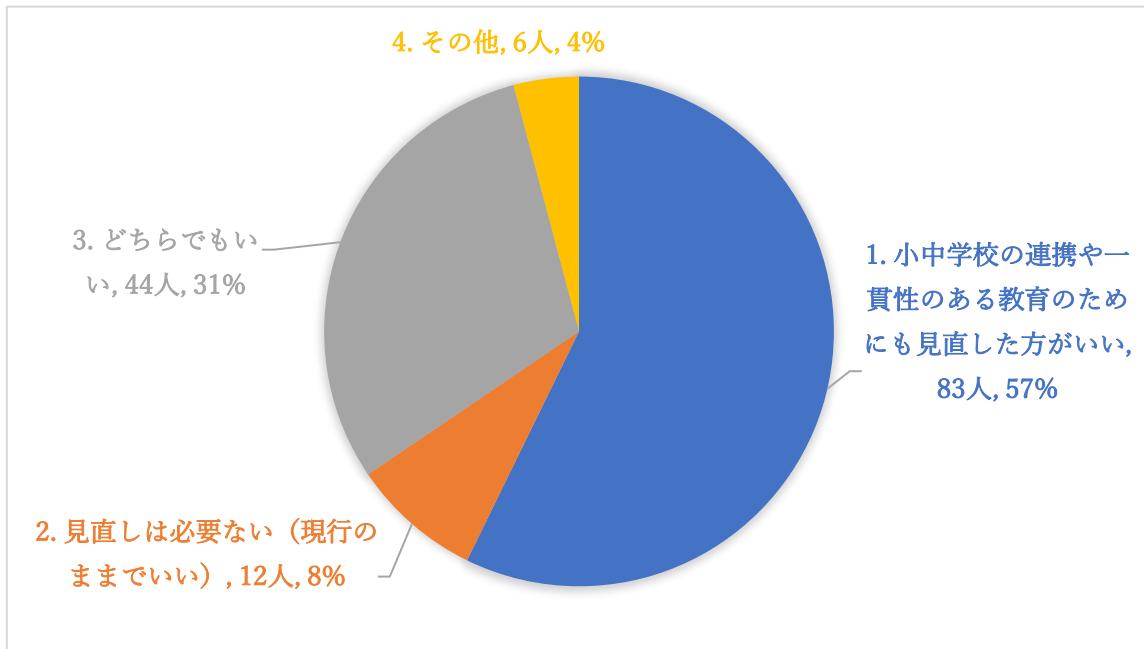
- ⑤ 通学において徒歩で許容できる通学距離を教えてください。  
 → 通学において徒歩で許容できる通学距離は 1.5km 以上 2km 未満が 31% と一番多く、次いで 1km 以上 1.5km 未満の 26% となっています。



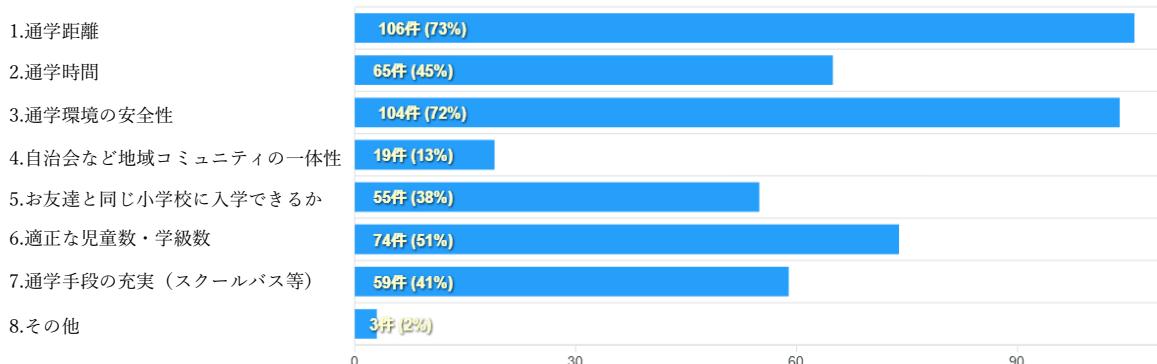
- ⑥ 今回、小学校区で通学区域の見直し（主に幸地の一部、幸地ハイツ、幸地高層住宅、翁長の一部、呉屋、我謝の一部の通学区域）を検討していますが、それについてどう思ひますか。  
 → 小規模校及び大規模校を解消するために見直しした方がいいが 74% を占め、現行のまま 3% にとどまりました。



- ⑦ 今回、中学校区で通学区域の見直し（津花波区及び西原台団地区を西原東中学校に、西原ハイツ区を西原中学校に変更）を検討していますが、それについてどう思いますか。  
 → 小中学校の連携や一貫性のある教育のためにも見直しした方がいいが 57% となり、現行のままでいいの 8% を大きく上回る結果となりました。



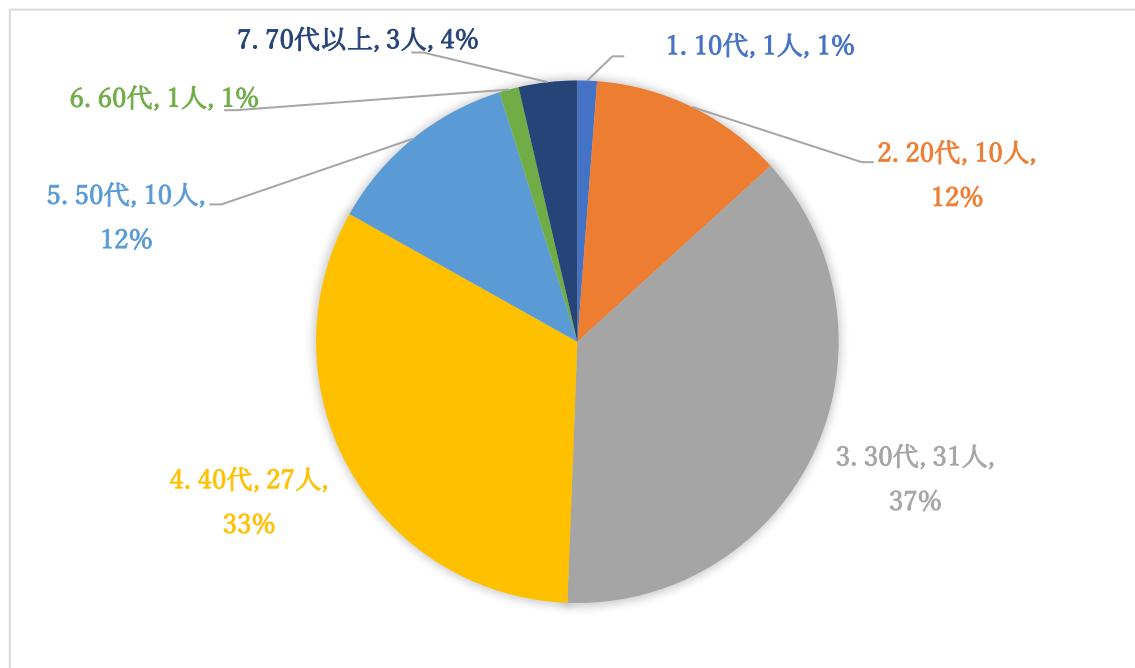
- ⑧ 通学区域の見直しを検討するに当たり、特に重要だと思う要素を選んでください。  
 → 通学区域の見直しに当たり特に重要な要素として、通学距離が一番高く、次いで通学環境の安全性、適正な児童数・学級数と続いています。なお自治会など地域コミュニティの一体性は 13% と低い数字となっています。



## (4) 地域住民

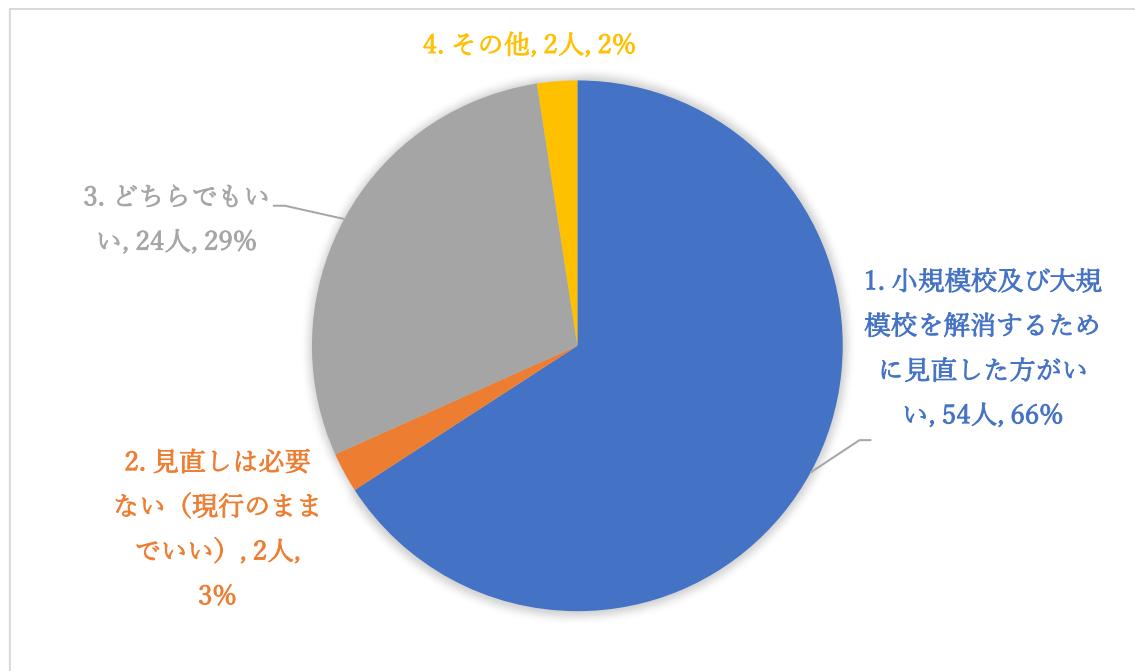
① 年齢を教えてください。

→ 30代の回答が一番多く、次いで40代となっています。

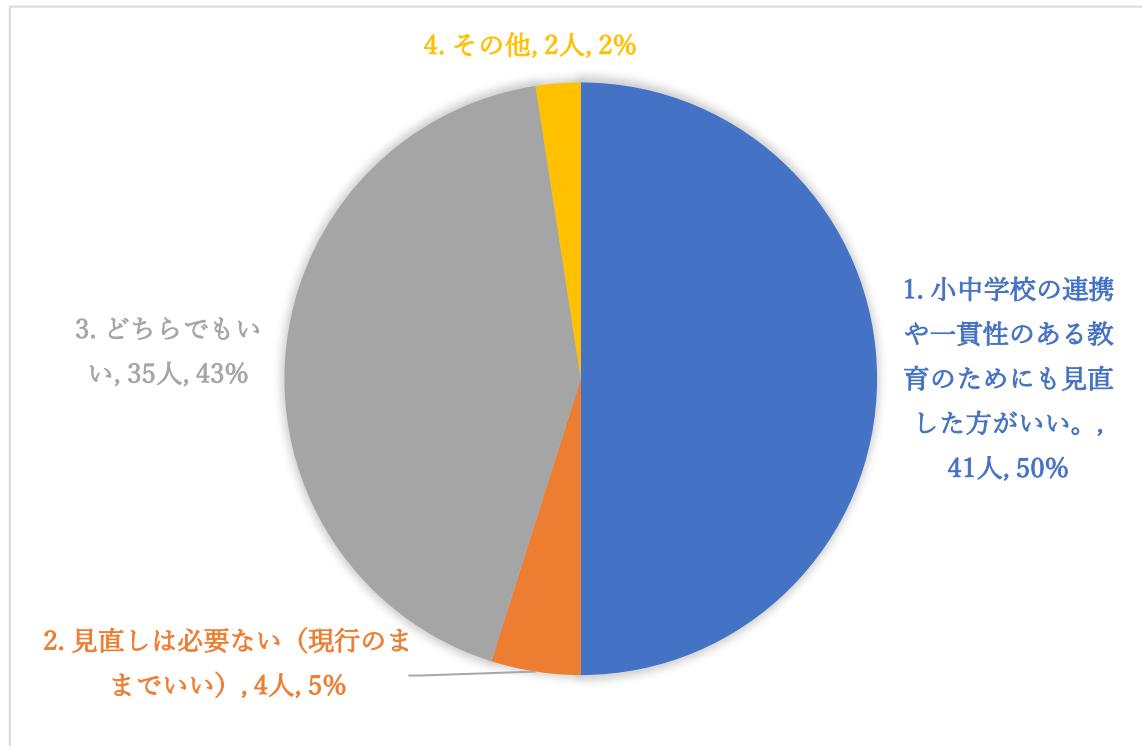


② 今回、小学校区で通学区域の見直し（主に幸地の一部、幸地ハイツ、幸地高層住宅、翁長の一部、呉屋、我謝の一部の通学区域）を検討していますが、それについてどう思ひますか。

→ 小規模校及び大規模校を解消するために見直しした方がいいが 66%を占め、現行の今までいいの 3%を大きく上回る結果となりました。



- ③ 今回、中学校区で通学区域の見直し（津花波区及び西原台団地区を西原東中学校に、西原ハイツ区を西原中学校に変更）を検討していますが、それについてどう思いますか。  
 → 小中学校の連携や一貫性のある教育のためにも見直しした方がいいが 50%で、現行のままでいいの 4%を大きく上回る結果となりました。



- ④ 通学区域の見直しを検討するに当たり、通学距離や時間、通学環境の安全性などの要素を考慮していく必要がありますが、重要な要素を選んでください。（複数回答可）  
 → 通学距離や通学時間が一番多く、次いで通学環境の安全性、適正な児童数・学級数となっています。自治会など地域コミュニティの一体性は 12% と低い結果となりました。

